

日本初! Virtual World of the Year 2007 開催レポート 前編

バーチャルワールドのキーマンが集結

今月七日、日本初となるバーチャルワールド・アワード「Virtual World of the Year 2007」(THE SECOND TIMES)主催の記念イベントが東京・青山スパイラルホールにて行われた。イベントにはアワードにノミネートされたテレビ各局・NEC、富士通、日本IBMといった著名企業やバーチャルワールドで活躍するキーマンが集結。記念講演や国内バーチャルワールドのプレゼンも行われ、大きな盛り上がりを見せた。本紙では二週に渡って特別特集。今回は記念講演とバーチャルワールドプラットフォームのインタビューを交えて、来週の後編では審査結果発表・授賞式の模様をお伝えする。

我々は仮想世界で人類の進化に貢献する

人類を新ステージに上げるトレンド作る



三、四年前の話になるんですが、ある大手企業でこんなことがあったそうです。その年の年末の納会後、あるシステムの担当者が副社長に緊急事態を報告しました。そのシステムは年明けから稼働する予定だったのですが、不具合でまだ稼働しないというのです。副社長は「この事態を解決できるのはあいつしかない」とある開発者を呼

ぶように指示しました。しかし、携帯電話してもしも一向に連絡が取れませんでした。別の社員が彼ならフイナルファンタジーで約りをやっていたはずと助けました。副社長は早速機材を用意し、フイナルファンタジー内の約り場に向かいました。「彼」はそこいらで、状況を話す。現実の副社長に彼からの電話がかかってきたそうです。今がこんな映画「マトリックス」のような世界が現実存在しており、仮想と現実の区別がどんどんなくなってきたんです。これは例えば携帯電話のさうなにもいえます。携帯電話を使えば、遠くの音(声)を聞くことができます。とがで、遠くのものを見ることもできます。こうした機能を身につけることは、人間本来の物理的な制約を越え、新しい仮想的な感覚器を手に入れたさうなものです。同様に仮想世界で物理的制約を取り払うことで脳はもっと進化することができると考えられます。現実世界は様々な制約があり、新しい発展が難しい状況がありますが、仮想世界ではそうした制約から解放され、新しい発展ができる可能性があります。そして、人類自体を新しいステージにあげるさうな、さういう大きなトレンドを作っていくにはいいなと思っています。

記念講演

株式会社ホットリンク代表取締役社長 内山幸樹氏

セカンドライフナイト ～仮想空間に期待されていること～ お酒を飲みながら ゆったりアクセス



二〇〇七年の一月から「セカンドライフナイト」というオンラインイベントを行っています。みなさんがセカンドライフにアクセスするときは、自分の家や仕事場からアクセスすると思うのですが、セカンドライフナイトでは渋谷のバーで複数の人が同じ大きなモニターを見てアクセスしています。それで気づいたのは、普段は自分が前のめりになって操作しなければならぬのですが、このモニターに座って単に眺めていることができるんです。また、いろいろなことを試していて、クローマキを使ってセカンドライフ内に自分が入っていくさうな映像も撮っています。四月からあるニュース番組で採用されることになりました。昨年はセカンドライフに期待を持ちすぎている人も多かったのですが、もう少し身元の歩み方もあると思います。セカンドライフナイトでは先進的なこともお酒を飲みながらゆったりとやっています。

記念講演

KandamNetworks Inc. 代表取締役
デジョーナーナリスト 神田敏晶氏